

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身に付けさせる。 ② 生徒一人ひとりに見合った指導を工夫し、全ての生徒が等しく学習者として参加できる体制を整える。	① 科学技術教育に興味・関心を抱かせ、能動的に授業に取り組めるようにする。	① 学習内容と科学技術を結び付け、知識を自分事として捉えさせる。また、実習や課題研究、資格取得等を通して、幅広い多くの体験をさせる。	① 生徒による授業評価項「授業の中で、身についたことやできるようになったことを実感することができた。」や「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。」が高評価であったか。	①生徒による授業評価の回答が、第1回、第2回ともに約80%の生徒が肯定的な回答であった。達成状況は良好であった。	①次年度以降の授業評価においても高評価となるよう、これまでの改善や取組みを継続する。また、生徒によるICTの活用を進化させる。	・生徒による授業評価は数値が明示されていてわかりやすい。授業評価の記述回答から課題を見つけてどのように対応したか説明できるとよい。	・多数の生徒が学習内容と科学技術を結び付けることができた と判断できる結果であった。 ・今後は生徒自身がICTスキルを進化させることが課題である。	・授業評価の記述回答から具体的な課題を見つけ、改善策を検討する。 ・一人一台端末やクラウドの利用を促進する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	① 基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会のルールを順守できる人材を育成する。 ②支援が必要な生徒を適切な機関につなげる支援体制を構築する。 ③ 部活動や委員会活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力などの人間性を育む。	①丁寧な指導を行い、基本的な生活習慣を確立する ②効果的な支援が行えるよう、支援体制の充実を図る ③生徒の課外活動への取組を促進させる。	①定期的な校内外指導を実施し、社会のルールを順守できるよう指導する ②SC、SSW と連携し、組織的な相談体制を確立する ③部活動に関する情報収集と外部への発信。部活動、各種委員会の校内での活躍の場を設ける。	①校外からの苦情が「0」であったか ②生徒の抱える問題を「100%」解決できたか ③部活動の加入率50%を目指す。各種委員会の活動を各委員会とも3回を目指す。	①定期的な校内外指導を実施することにより、校内校外において問題行動が減少した ②SC、SSW と連携することで、生徒をはじめ保護者の相談にも対応できた ③部活動の加入率は51.2%であった。(2025年2月5日現在)委員会の活動は等しく目標を達成できてはいない。今年度活動が継続的に行われた委員会もある。	①長期休業明けと定期テスト直前に問題行動が起こる確率が高いので、実施時期を検討する ②保護者も相談できる事を周知する ③部活動加入については、協議会で頂いたご意見を参考にHPでの報告を行っている。委員会は、生徒が主体的に活動している委員会もあり、今後も働きかけをしていく。	・生徒には社会性を持たせる機会を作ってもらいたい。 ・保護者もSCに相談できるということを広く知らせてほしい。保護者が教育相談できると学校に対する困り感が減少すると考えられる。	・校内外指導により問題行動を減少することができた ・保護者もSCと相談することができた ・在籍者数の半数以上が部活動に加入し、活動できた。 ・委員会は、当初の目的とした活動を行うことができた。 ・校外での活動に参加する機会が持てる と良い。	・行事予定と照らし合わせ、実施時期を検討する ・HP等を通じて保護者も相談できる体制を案内する ・新入生に対するオリエンテーションの機会を有効活用する。入部の要領をわかりやすくする。 ・校外での活動等の情報をこまめに生徒に伝達する。
3	進路指導・支援	① 生徒が主体的に進路決定に向き合えるように入学期から段階的に進路指導の充実を図る。 ② 上級学校への進学を見据えたキャリア教育を実践する。	①学校生活の様々な機会を利用した進路指導教育を実践する。 ②就業体験の機会を設ける。上級学校・企業等との連携を図る。	①社会人として必要な知識マナーを身に着けることを目指し、進路指導教育の充実を目指す。日ごろ生徒に接する中で進路意識向上をめざす。 ②2年生インターンシップを実施する。上級学校・企業等からの出張授業を展開・学校見学会を実施する。	①就職内定率100%は果たせたか。進路未決定のまま卒業する生徒をゼロに近づける方策を果たしたか。 ②持続可能な、インターンシップが実施できたか。上級学校・企業等からの出張授業ができたか。	①就職希望者の内定率は97%となった。活動を始め手帳を持つ2名が活動中。(2/13現在) ②インターンシップは、8社22名で実施した。大学・企業の出張授業は、系単位で実施した。	①成績不振者や障害のある生徒に外部との連携も図り、早期の活動を提案し、選択の幅を持たせていく。 ②就業体験の意識が低い生徒がいたので、対応が必要である。出張授業については、調整を図り実施できるようにしたい。	・就職試験の合格率は時期によって違うか。指導の内容に変化が必要になると思う。 ・キャリアパスポートに振り返りを記入することとで自分の身に着けた力が確認できると思う。小・中・高で連携ができるとよいと思う。	・就職希望者の内定率は、99%となった。障がい者雇用として1名が活動しているところである。 ・キャリアパスポートについては、進路ノートに転記できるようになっているが、引き継がれる前に紛失している生徒もいる。	・個々の身体的特性をいち早く把握し、3者面談までには方向性を決めていく。 ・キャリアパスポートについては、令和のこの時代可能であるならば、デジタルでの個人保管としていただきたい
4	地域等との協働	① 工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭、学校へ行こう週間等での地域への公開で開かれた学校づくりを進める。 ② 保護者や地域社会との協働により開かれた学校づくりをめざす。	①近隣中学校の上級校訪問等を通し、本校の特色の周知を図る。 ②PTAや地域との連携を拡充し、教育活動の推進に取り組むと共に、ものづくりなどを通じて地域に貢献する。	①中学校訪問等を通し、中学校の進路指導状況の情報を集め、本校の広報活動に活かせるようにする。 ②PTAや地域の方と連携した取り組みの実施とその情報発信を広める。	①収集した情報を分析し、次年度の広報活動に向けた準備ができたか。 ②連携した事業の実施状況及びそれを踏まえた地域連携部会等の意見を検証する。	①近隣中学校に講演を行った。また、本校に来校してもらい特色を周知した。 ②地区大会の発表・被災時の自衛隊の炊き出し訓練を実施した。	①学校説明会や中学校訪問で体験活動を増やしていく。 ②PTAのあり方を検討する。地域連携の取組を検討する。	・中学生は工業高校に興味があり、どのような内容か知りたいと思っている。機会をとりえて説明をしてほしい。 ・保護者が納得できるPTAの在り方を検討してほしい。	・本校の教育活動を理解できている生徒・保護者は前向きに学校生活をとらえている。 ・新しいPTA活動について検討することができた。具体的な運用が課題である。	・本校の授業の体験や3年後の姿を具体的にイメージできる広報活動を行う。 ・総会の承認に向けて資料を作成し、保護者が納得できる活動を提案する。

5	学校管理 学校運営	① 職員の働き方改革を推進し、事故・不祥事が起こらない職場環境を創造する。 ② 防災意識を高め、防災力を上げる。地域の防災拠点としての充実を図る。	①不祥事防止会議を職員主体で実施するとともに職員の働きやすい職場を目指し、オフィス改善を実施する。 ②実践的な防災教育を教育課程の一環として定着させ、地域とも連携した防災力を向上させる。	①月一回の職員会議を通して全職員で事故防止について考える。 ・衛生委員会を通して全職員の意見を集約し改善に努める。 ②平塚市災害対策課の協力を得て、防災講演会及び訓練体験やD I G（災害図上訓練）の実施及び情報発信する。	①毎月事故防止研修を実施できたか。また、事故・不祥事件数をもとに検証する。 ・職員の意向がオフィス改善に反映したかアンケート等を実施し検証する。 ②防災訓練の実施状況及び、訓練及び講演会等の参加状況を検証する。	①月に一度の事故防止に関する会議を職員が主体となり実施できた。また、オフィス改善については、各職員の意見を集約し来年度の実施に向けて準備完了した。 ②8月、1月に防災訓練を実施し、適切な訓練ができた。	①職員室の移動や引越等等の運営に関し職員全体が混乱しないよう準備を進める。事故防止については、職員主体の会議を引き続き実施し、職員が当事者意識を持てる内容について検討を進める。 ②状況に応じた対応ができるように準備する。	・事故防止研修を毎月実施していることは評価できる。繰り返し職員の意識を涵養する必要がある。 ・防災訓練については地域、行政と協働で取り組んでほしい。	・今年度不祥事ゼロを達成することができなかった。各職員の意識がこれまで以上に向上させる活動について検討することが急務である。 ・スムーズな対応ができた。	・これまでの不祥事について振り返るとともに、その浮上氏の予防等について職員が考える機会を設ける等の方法を検討する。 ・緊急時の対応に向けて準備をする。
---	--------------	--	--	---	---	---	---	---	---	--